



程貞作  
因魚

那  
傳



氏  
母  
氏

八編上

氏  
氏  
氏





秋の母恋

八編上

秋の母恋



紫女が筆の妙なる哉此若菜より遙に上未摘花の巻中、雅君の御鼻  
 の長きと普賢井の乗物と見ゆと多し見立、戯文のまじりも若彼君が御々  
 鼻の申やうな案、いづくの文殊、菩薩の跨坐と必定うたむやうん  
 秋柳源氏の巻といふ文殊普賢不勝のく、尊き救世大士の化身は若  
 述として世に奇賞も既す、其を擬し此神史も普賢の乗らぬもの  
 六牙の象は六編、他人の作よりつる七観音の七篇より縁故あり  
 已手なるとん、則薩埵の誓願のいふ枯る水も咲花より、冊子小文章を  
 開くも、妙智カある趣向も、かゝと頻に顧慮も苦め、さうして欲得智慧文殊  
 その乗物の獅子あや、柳に聊因ある信田社と、道守士と、式部、例の曲文  
 心のいふ、しる和泉前司といふ名を、僅炭化せ、大鳥郡司を、媒氏に復し  
 月の桂樹、一燈基殿の潜通する、談端を、此巻小綴しり

嘉永壬子泰月

柳下亭種員記



東  
 種  
 員  
 記  
 由  
 縁  
 部  
 畫  
 八  
 編  
 上  
 冊

錦屏堂





海の...  
 とあつた  
 志...  
 あり  
 あり  
 あり

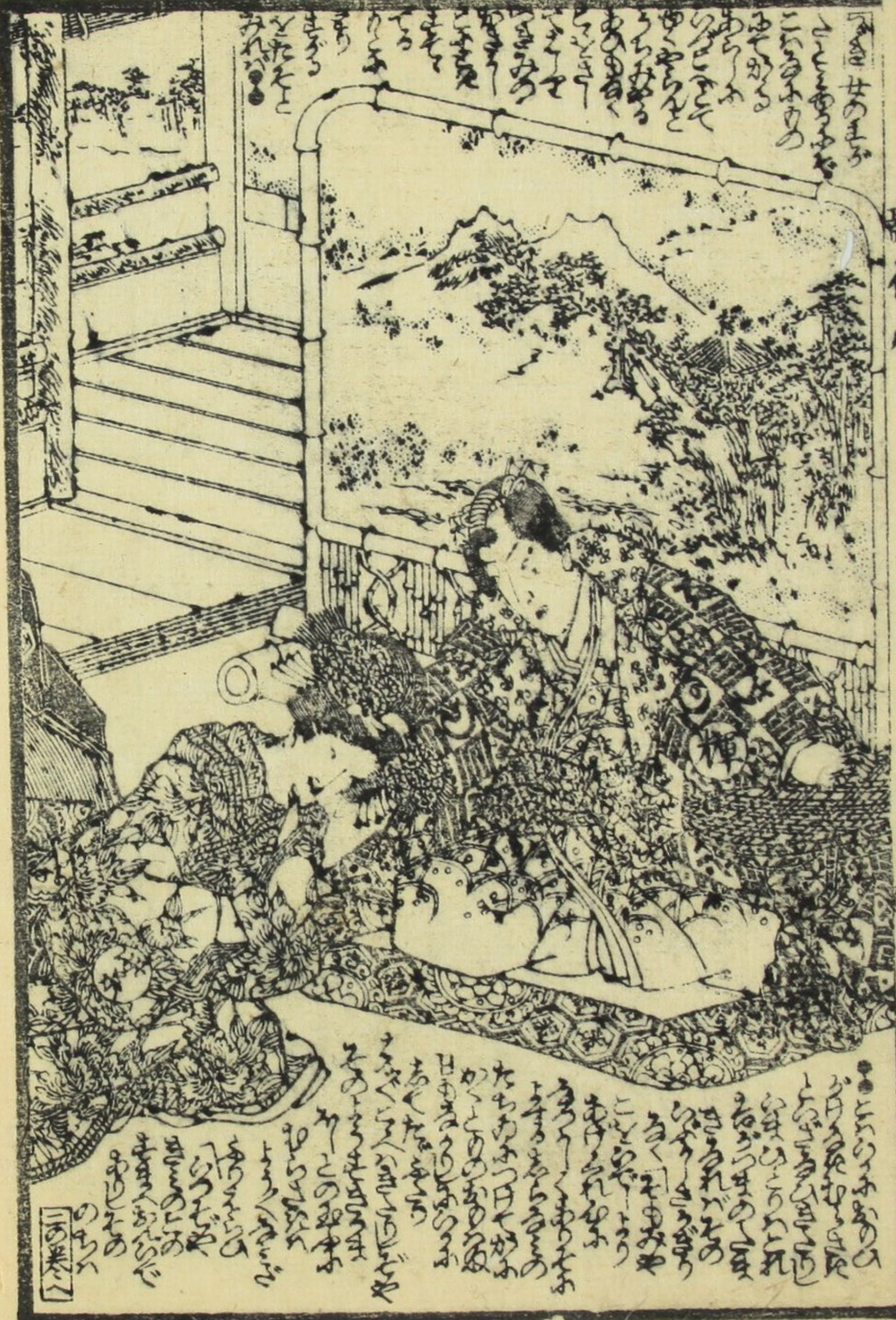


年月...  
 ...  
 ...







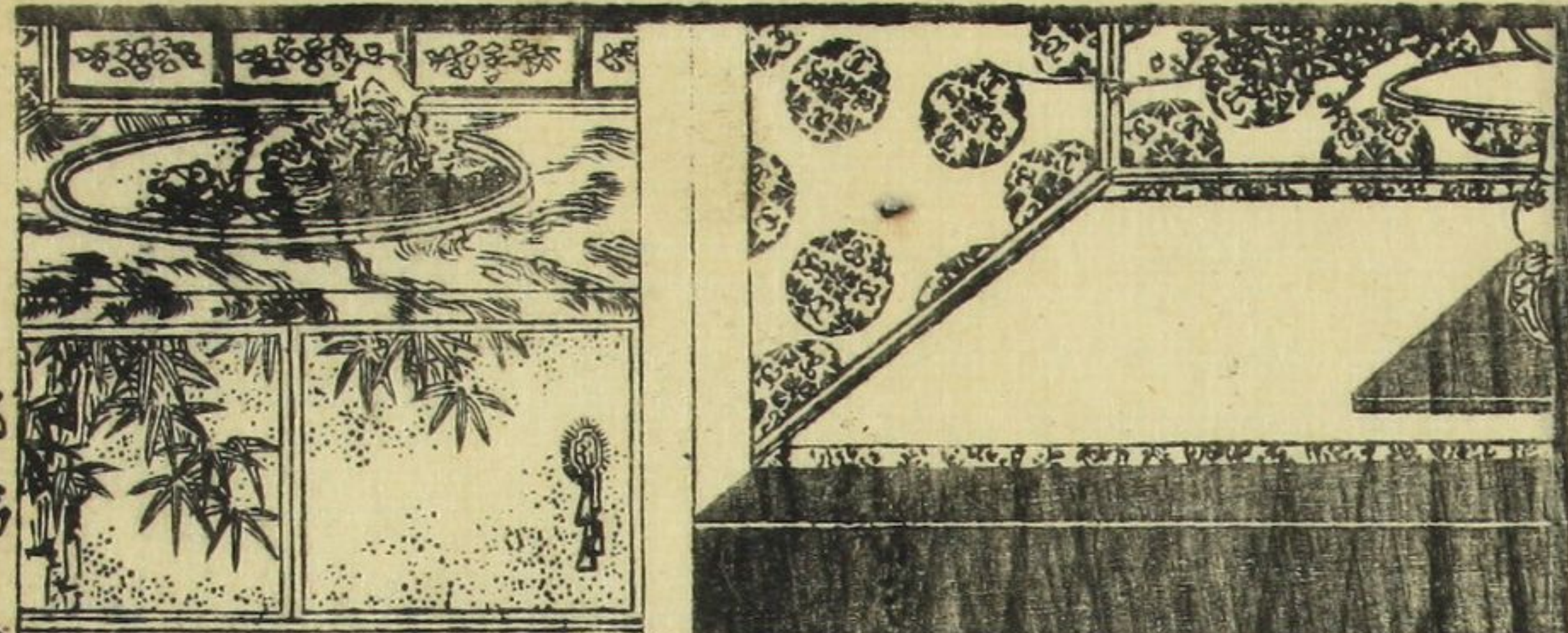












信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡



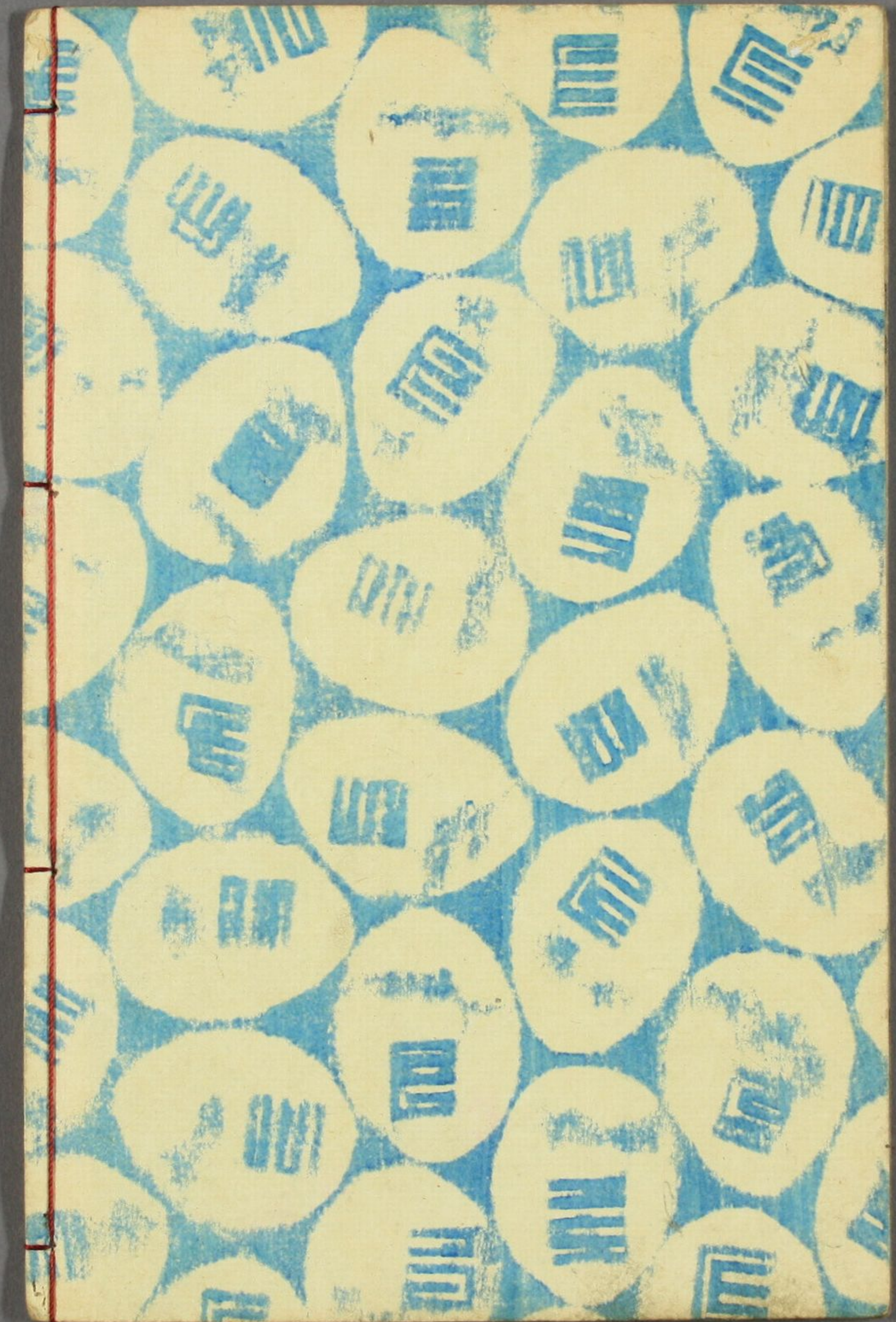
信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡

信田郡司が  
 伺ふまゝに  
 どの来ふらう  
 馬  
 郡





豊  
田  
急  
釋  
負  
作

部  
傳



八編下





源 第 一

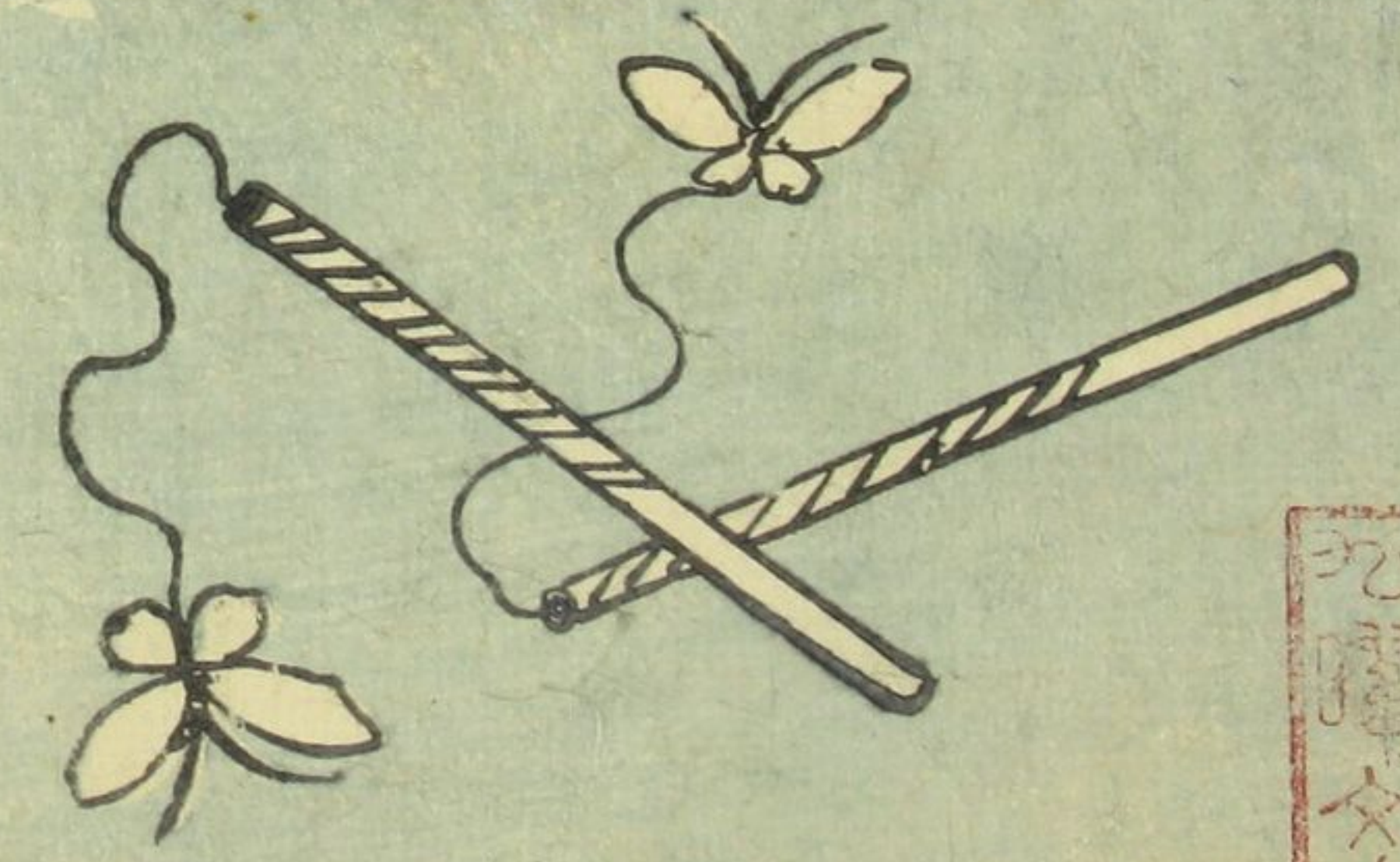
二の表よりうつし  
 おんせとこれぬかのまよひのうら  
 うへにこれいかりのまよひの  
 るまよひとまよひかこゝろの  
 ちのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの  
 こゝろのまよひとまよひかこゝろの

とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの

○ひろの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの  
 とらふとくしんやのまよひの

# 心

心 行 真 玉 臭 玉  
 心 行 真 玉 臭 玉  
 心 行 真 玉 臭 玉  
 心 行 真 玉 臭 玉

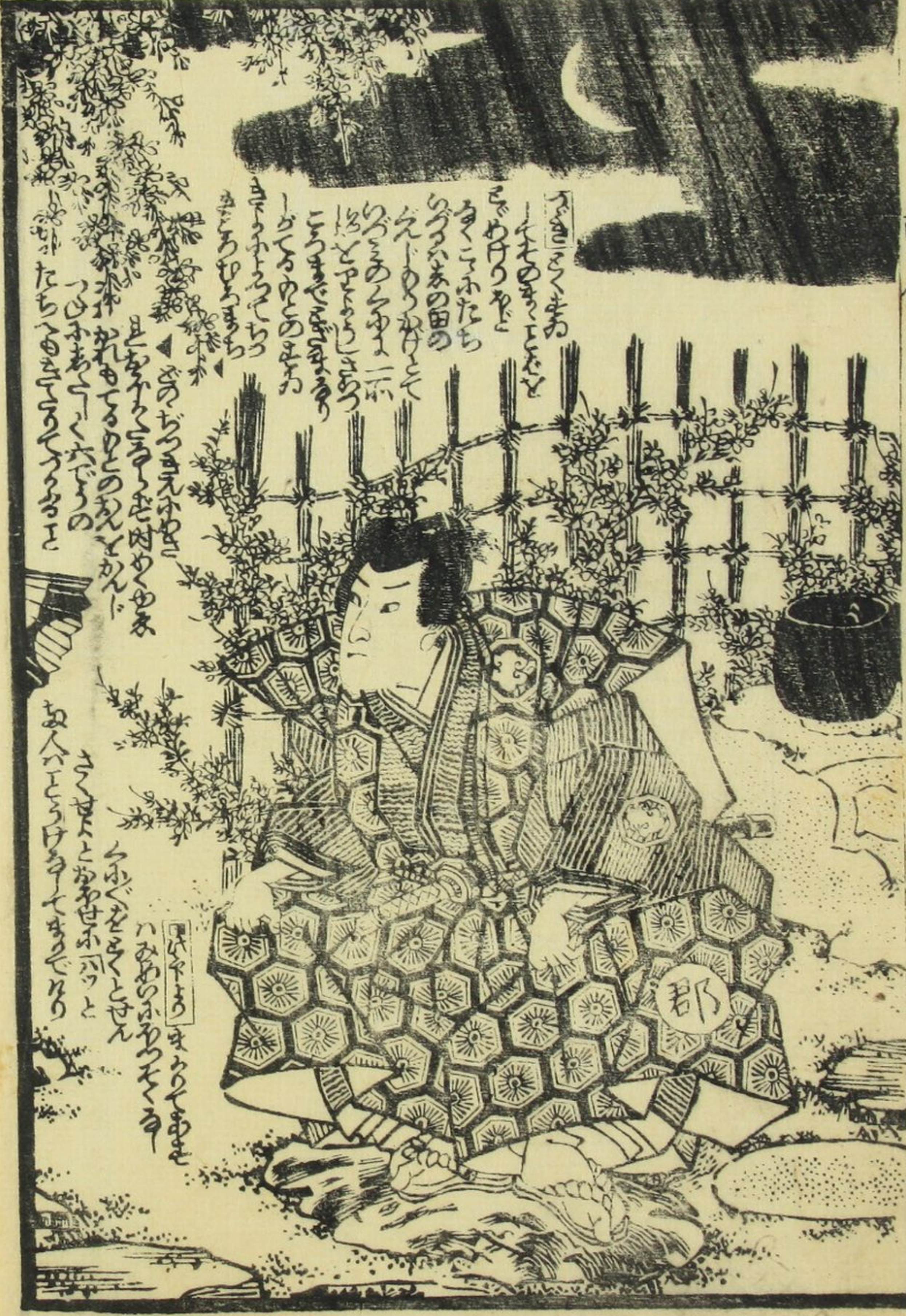






あつらひのたけふやぐさふつそ  
 ちつてのゆこのまげんをちかひの  
 あつらひのまげんをちかひの  
 えれくの  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ

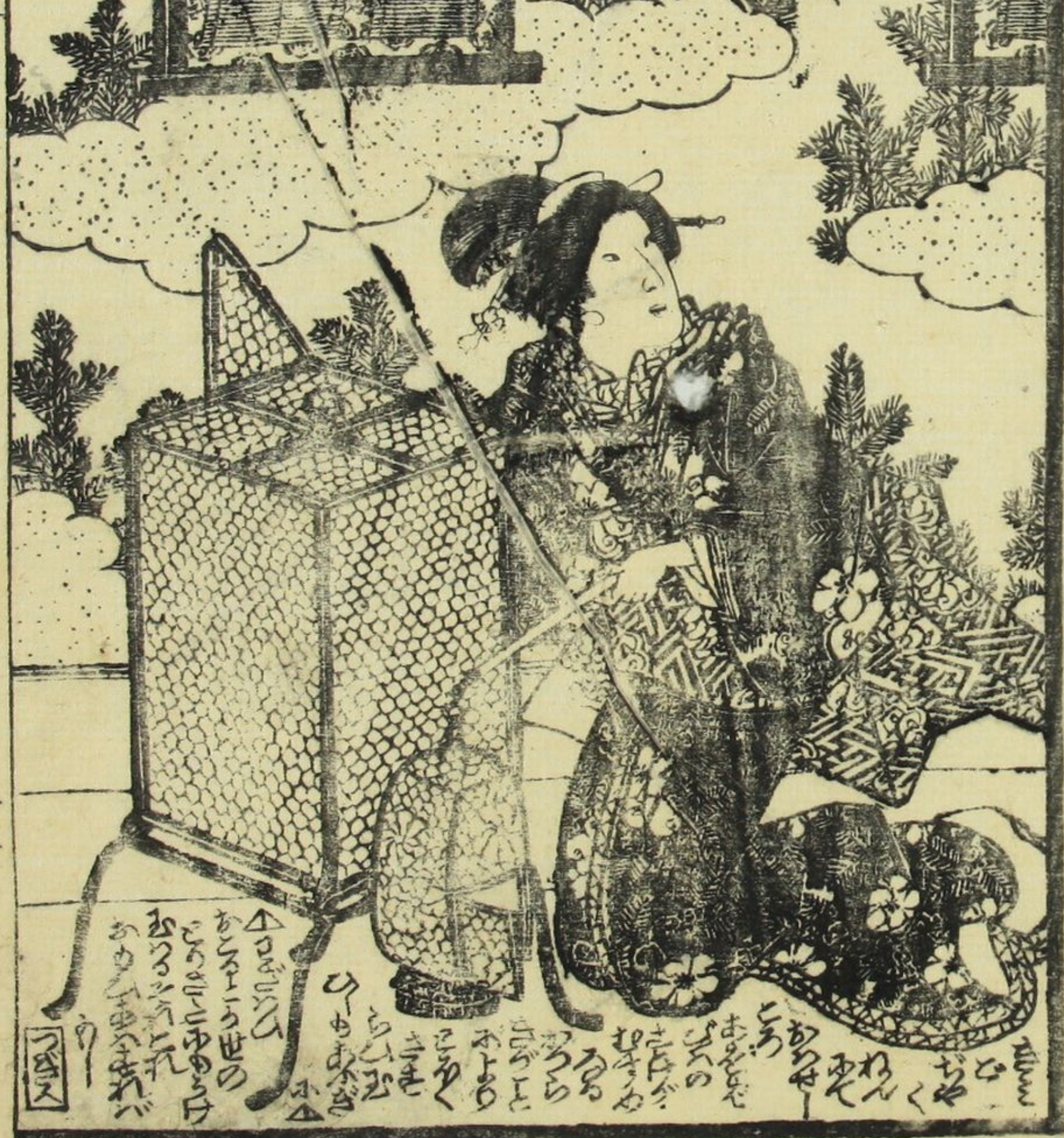
あつらひのたけふやぐさふつそ  
 ちつてのゆこのまげんをちかひの  
 あつらひのまげんをちかひの  
 えれくの  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ



あつらひのたけふやぐさふつそ  
 ちつてのゆこのまげんをちかひの  
 あつらひのまげんをちかひの  
 えれくの  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ

あつらひのたけふやぐさふつそ  
 ちつてのゆこのまげんをちかひの  
 あつらひのまげんをちかひの  
 えれくの  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ  
 □あつらひ  
 今まてのちかひ

ついでにわかれどき  
 ちかちかしの夜  
 けいふのけいふし  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ



ついでにわかれどき  
 ちかちかしの夜  
 けいふのけいふし  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ

ついでにわかれどき  
 ちかちかしの夜  
 けいふのけいふし  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ



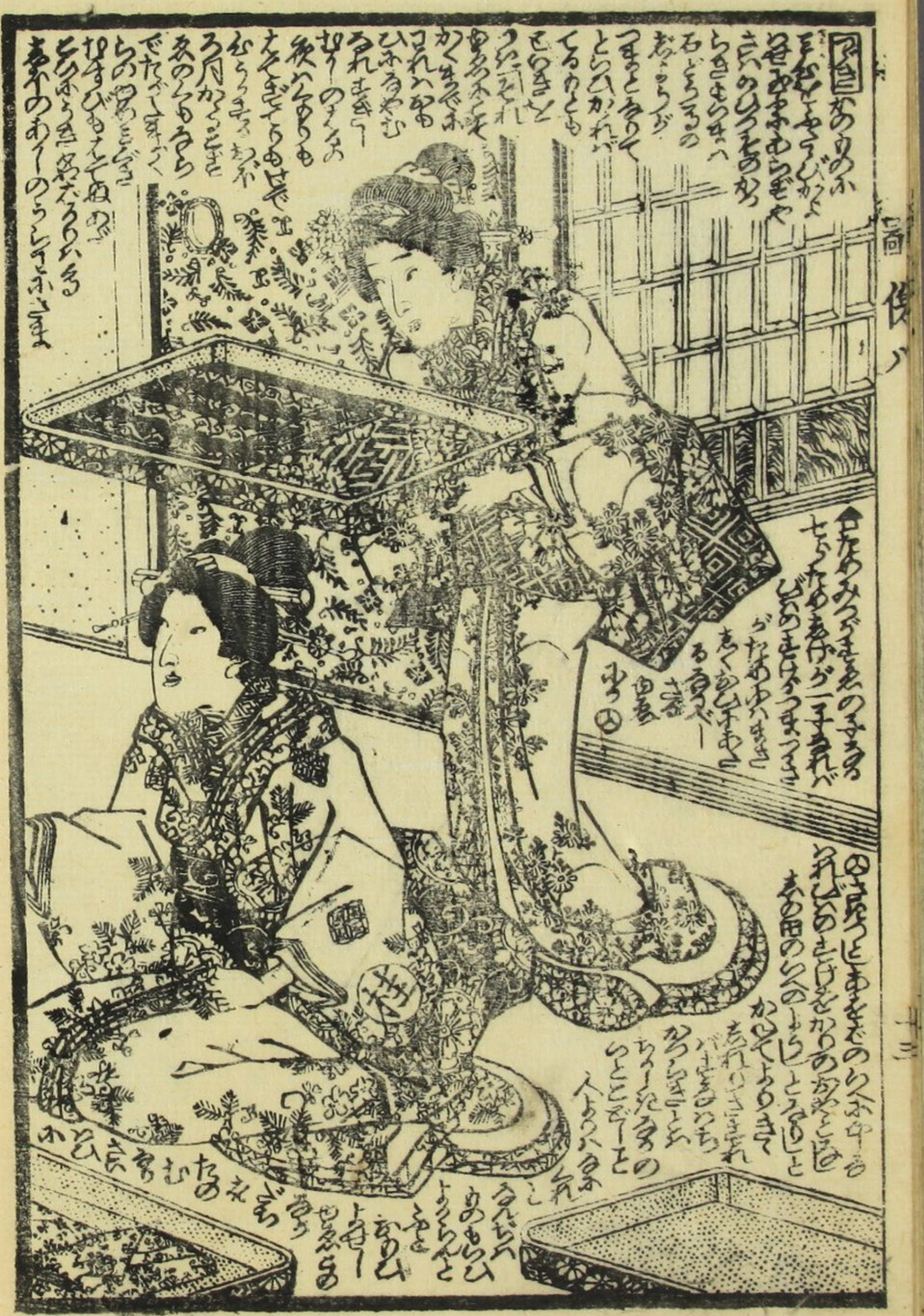
ついでにわかれどき  
 ちかちかしの夜  
 けいふのけいふし  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ  
 のりまのけいふ  
 りんごのけいふ



あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...

あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...

あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...

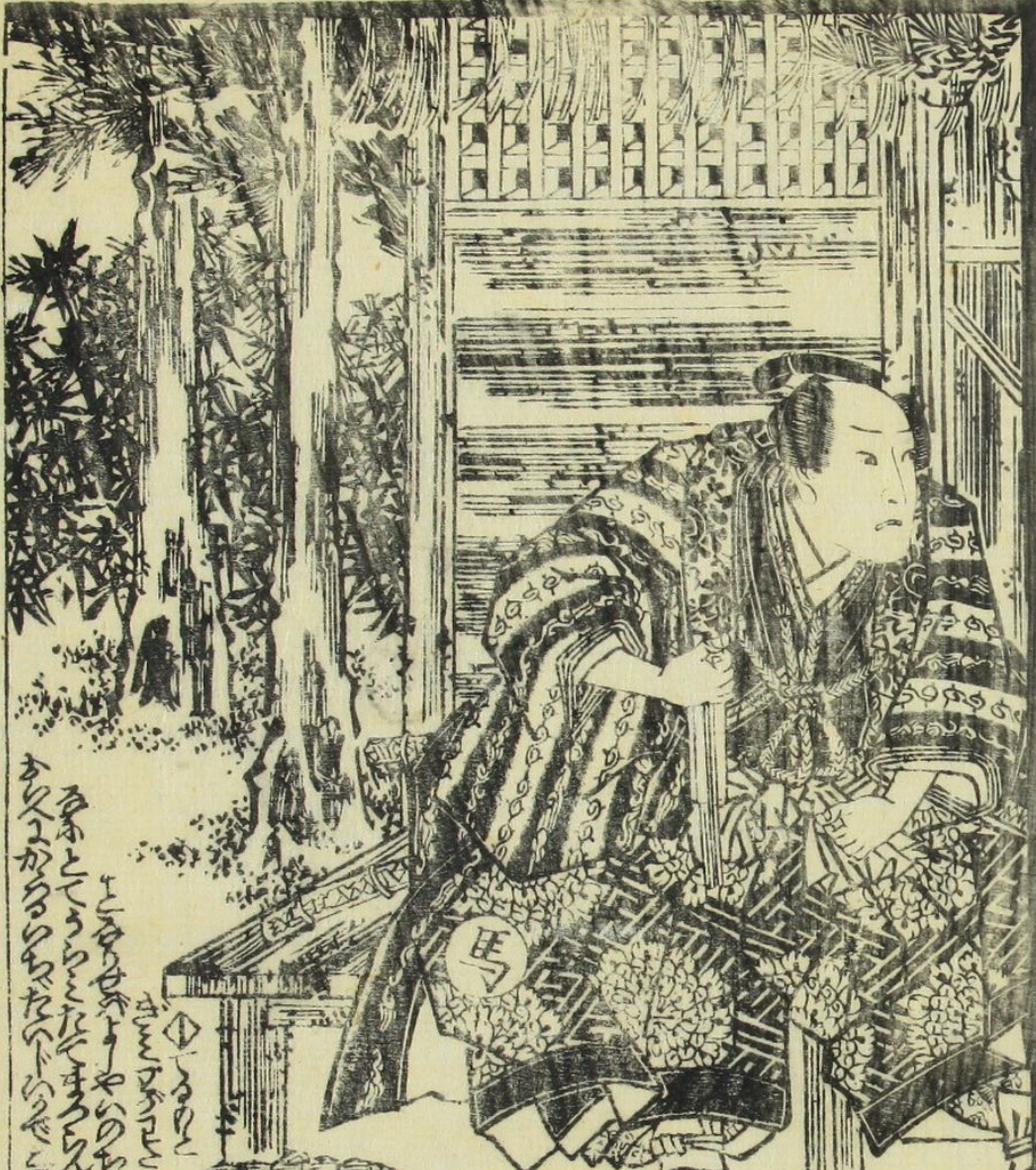


あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...

あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...

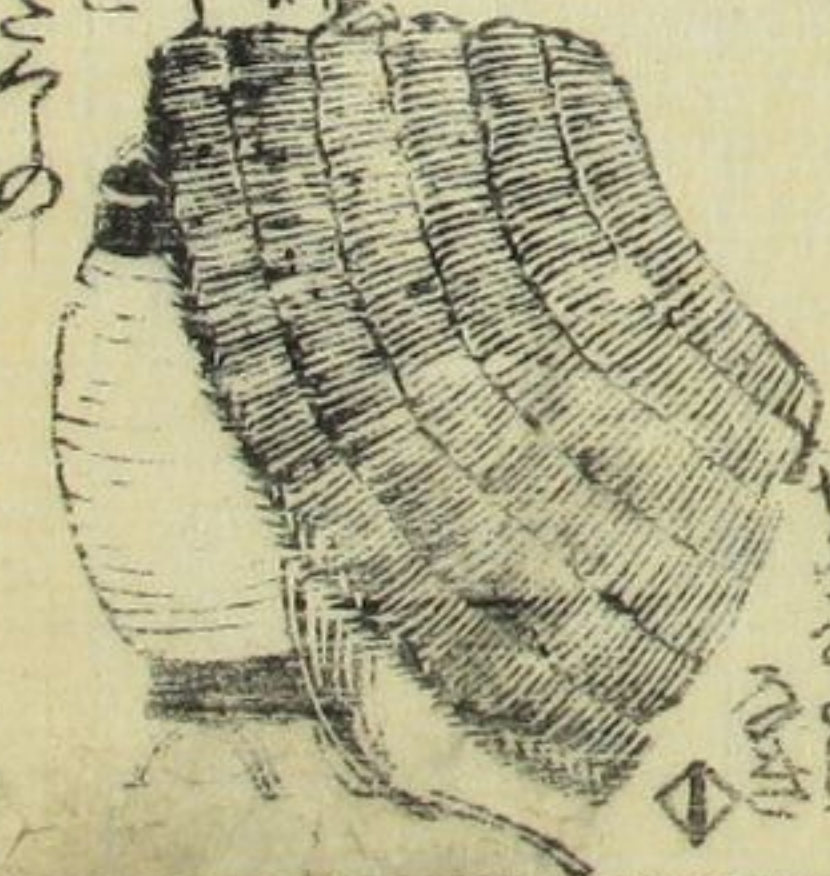
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...  
あつこい... せんせいの...



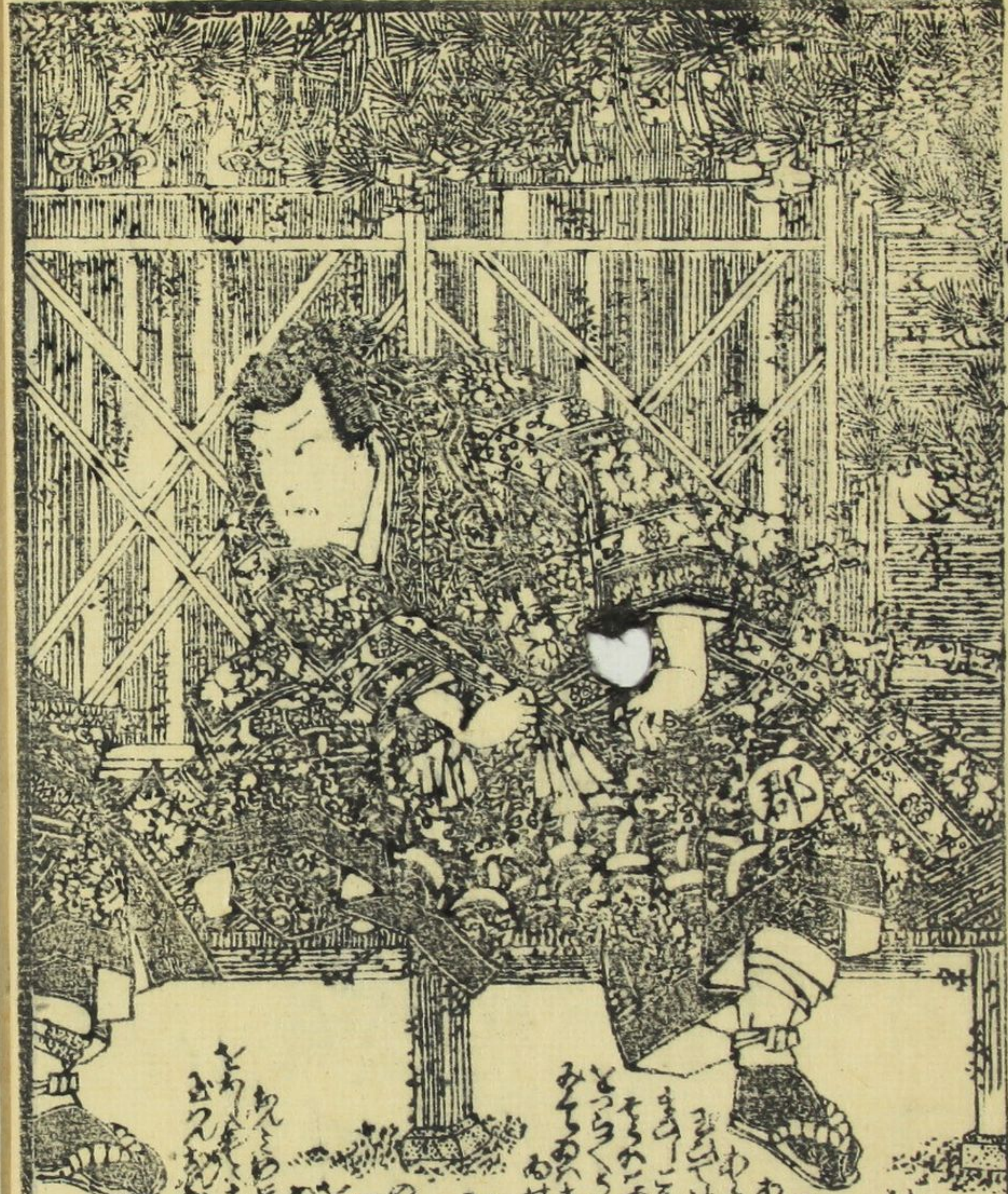


下第

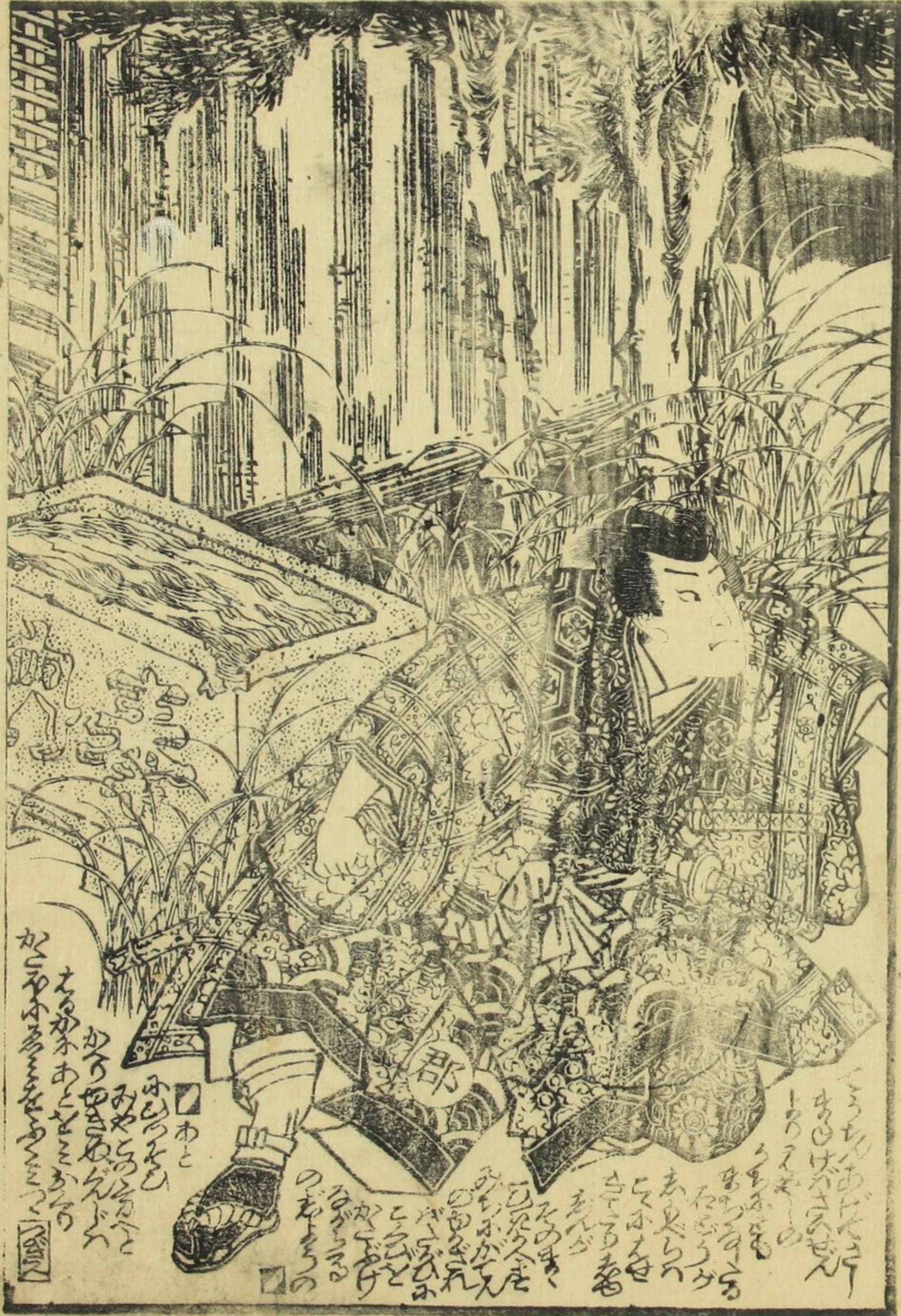
この世はよりのちとてふこと  
あるとしてうらたをまろけり  
おとからわちたのいそぎま  
さるる



三の美より  
あつたけ  
まろけり  
おとから  
わちたの  
いそぎ  
ま



あつたけ  
まろけり  
おとから  
わちたの  
いそぎ  
ま



みづかひのうらやまを  
まもるまはすかむ  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを



おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを

まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを  
まもるまはのひまを  
まもりあつたれん  
おのろをさるおれ  
られまはのひまを





いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの

いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの

とまの  
世の

いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの



いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの

いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの

いままはかひてのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの  
あひのれあひのまの





みんぞん  
 正八  
 正八

あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす

輝基  
 桂樹  
 許小  
 此段の第九編小

あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす  
 あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす

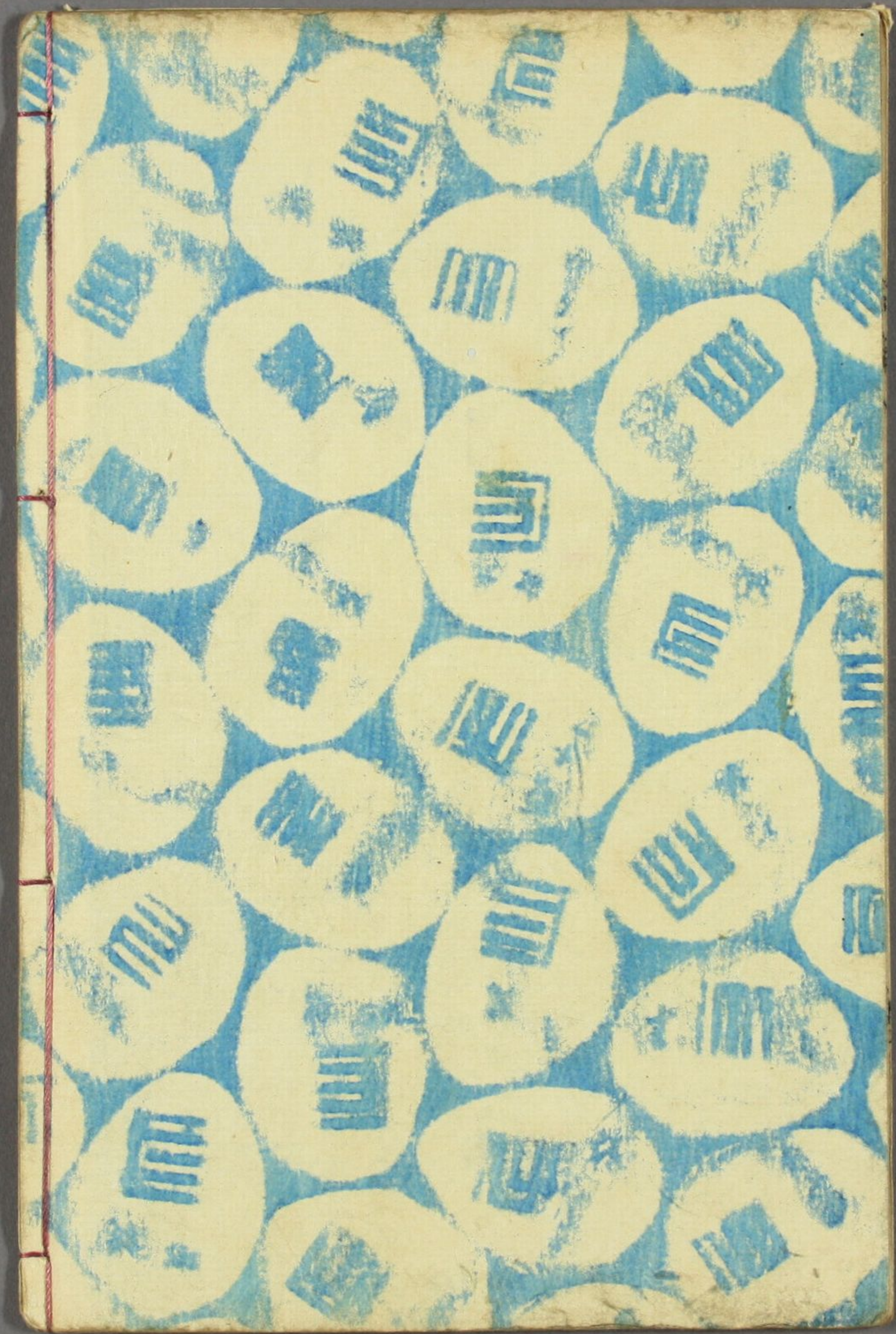


あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす

あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす

あつち  
 ちのこを  
 じまわす  
 ちのこを  
 じまわす





其 種 由 其  
負 緣 豐  
作 鄙 國  
儋 玉 貞  
第 八 編 虫

錦  
目  
升  
文  
庫

